

国内希少野生動植物種アカモズの ファウンダー導入と野生復帰に向けた技術検討

長野アカモズ保全研究グループ 松宮裕秋



■ 2024年度成果の概要

本活動では、絶滅寸前の鳥類アカモズの生息域外個体群確立を目的とした飼育下へのファウンダー導入や生息地での野生復帰に向けた技術検討を行い、次の成果を得ました。

- ・ 長野県の繁殖地で41ペアのアカモズをモニタリングしました。
- ・ 繁殖失敗した巣から19卵を保護し、豊橋総合動植物公園へ移送に成功しました。その結果、13羽が孵化し、そのうちの11羽が巣立ちました。
- ・ 野生復帰に向けた放鳥場所の検討材料とするため、生息地における餌量調査と捕食者密度調査を実施し、放鳥適地を選定しました。

■ 活動の背景

アカモズは個体数が激減している夏鳥であり、特に本州においては早ければ2026年にも地域絶滅するという予測もあります。絶滅を回避するためには、域内保全に加えて、緊急的に生息域外保全を開始し、保険個体群を形成することが必要です。そこで、当グループでは、飼育下へのファウンダー導入を目的に、繁殖失敗卵の保護、動物園への移送、野生復帰に向けた繁殖地の餌量と捕食者密度の調査を行いました。



アカモズ *Lanius cristatus superciliosus*
スズメ目モズ科。北海道と本州で繁殖し、インドネシアへ渡って越冬する。

■ 主な活動内容と成果

① 繁殖地でのモニタリング

長野県の繁殖地で調査を行い、41ペアを確認しました。また、主要地域では18巣に捕食者ガードを設置することで、66%*のペアの繁殖に成功しました。*過去5年で2番目に高い値

② アカモズの採卵・移送

繁殖失敗した5巣から計19卵を豊橋総合動植物公園へ移送しました。その結果、13羽が孵化し、そのうちの11羽が巣立ったことで、前年度に引き続き、ファウンダー導入を達成しました。

③ 餌量調査・捕食者密度調査

ラインセンサスとマレーズトラップを用いて昆虫の個体数を調査した結果、繁殖地の果樹園の栽培方法によって、餌量が異なる可能性が示されました。また、センサーカメラを用いた調査で、繁殖地内の捕食者密度を推定しました。これらの情報をもとに、放鳥適地を選定しました。



採卵したアカモズの卵



撮影された捕食者（ネコ）

■ 今後の展望

引き続きファウンダー導入を継続しつつ、飼育下での繁殖と野生復帰を目指します。